

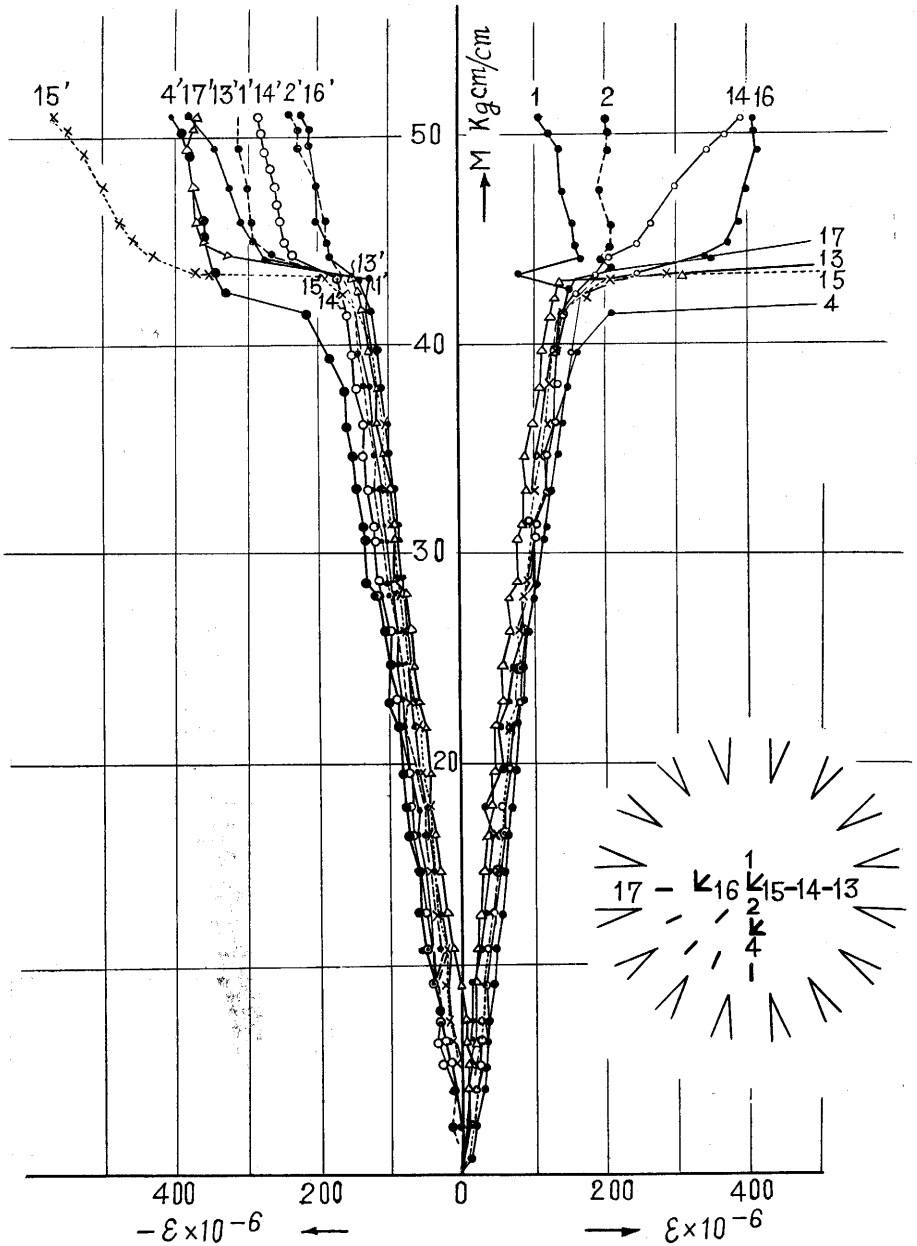
M-ε 曲線, 第5図 ~ 第9図は各試験体の単位巾に対する曲げモーメントと歪との関係を示した。

第7図, 第8図は十字形板の M-ε 曲線であるが, 十字形板中心部にかげられた一定の応力は比較的均等に分布していることが解る。しかし板の鋭い凹角における応力線の変化は十分考慮されなければならない。凹角近傍においてやや応力攪乱が観察されたが凹角より中心方向に約 2 cm 入った部分からは比較的一様な応力分布であることが解った。

第9図の円板は比較的一様な応力分布状態であることが解る。しかし十字形平板同様, 応力分布は円板との不連続部において多少の応力攪乱が見られた。

以上これらから, 二方向同符号の純曲げモーメントを作用させるための試験体の形状は多少の応力攪乱はあるが十字形平板, 円板でもやや

満足な結果が得られるようである。なお解析の結果は紙面の都合で今回の報告には発表できなかったが続いて報告する。(1959. 4. 22.)



第9図 円板 M-ε 曲線

(\*3) 坪井・末永: “鉄筋コンクリート板の曲げ破壊性状について” 関東支部研究会報告 1958年6月。

正誤表 (5月号)

頁	段	行	種別	正	誤
4	右	15	本文	オートメーションにかけられない...	オートメーションにかけられた...
"	"	32	"	従来の日本の	将来の日本の

文献

- (\*1) 坪井善勝: “鉄筋コンクリート板の破壊に関する私見” 関東支部研究会報告 1957年1月。
- (\*2) 坪井・内田: “平板破壊に関する二実験” 論文報告集 57号 1957年7月。